



Data

監督: デイヴィッド・ウィーヴァー
脚本: エラン・マスタイ
出演: サミュエル・L・ジャクソン
/ ルーク・カービー / ルース・ネッガ / トム・ウィルキンソン

■■ ショートコメント ■■

◆ 『シネマルーム29』のラインナップには、『夢売るふたり』（12年）と『カラスの親指』（12年）という2本の「詐欺師映画」が確定しているので、それにもう1本追加しようと考え、サミュエル・L・ジャクソンが伝説のコンフィデンスマン（詐欺師）役を演ずるという本作を劇場に観に行くことに。詐欺師映画は、何よりもあっと驚く詐欺の仕掛けが大切。『カラスの親指』では奇妙な5人の男女の共同生活が長々と描かれた後、鮮やかな「アルバトロス作戦」が実行され万々歳となったが、実はそれが本テーマではなかったというところがミソだった。

本作では25年ぶりに刑務所から出てきたという主人公フォリー（サミュエル・L・ジャクソン）が、かつてやむにやまれぬ事情で殺してしまった親友（相棒）の息子イーサン（ルーク・カービー）から執拗にパートナーになるよう誘われるストーリーが展開していく。しかし、そこでフォリーの天才詐欺師ぶりは全く見られず、フォリーがイーサンの手の平の上で踊らされている感が強い。あれれ、フォリーはもったしたかな天才詐欺師ではなかったの・・・？

◆ 売春婦風(?)の若い女アイリス（ルース・ネッガ）がフォリーの目の前に登場し、「寝てもいいわよ」と誘ってくるシークエンスには、フォリーならずとも「ハメられているのでは？」と思うはず。しかし、そんな疑心暗鬼の中で互いに真実を打ち明け合ううちに、父娘以上に年の差がある2人が互いにかけがえのない存在になっていく姿はほほえましい。とはいえ、これも何か怪しそうと思っていると、案の定・・・。結局フォリーは一貫して

イーサンの手を平の上で踊らされた挙げ句、やむなくイーサンへの協力を決意し、イーサンのボスであるゼイビア（トム・ウィルキンソン）への一世一代の詐欺をたくらむことになるのだが・・・。

◆ 『夢売るふたり』では詐欺の手法がいくつも紹介されたが、本作でラストに画策・実行される唯一最大の詐欺は「善きサマリア人」作戦。新約聖書の「ルカによる福音書」でイエス・キリストが語ったとされる「善きサマリア人」の解釈は難しいが、一般的には困った人に対して仁慈と助けを与える人という意味だ。しかし、本作における「善きサマリア人」作戦は、ゼイビアにフォリーを信用させることによって、フォリーがゼイビアを騙す作戦らしいから、その手口はあなた自身の目でしっかりと。

◆ 本作に詐欺師映画の痛快さを求めてはダメ。むしろ25年間も刑務所に入っていたフォリーの重い重い人生観を感じさせることにウエイトをおいた映画だ。したがって、クライマックスにみる一世一代の詐欺も、思わぬところからほころびが出るのをはじめ、計算違いばかりになっていく。アイリスの「出生の秘密」がフォリーとイーサンの「綱引き」をめぐる最大のポイントだが、ホントにその秘密はとことん守られているの？そんな疑問を持ちながらクライマックスを迎えると、そこにはあっと驚く意外な展開が・・・。

◆ 本作は、刑務所から出てきたフォリーが「意思さえあれば人は変わることができる」と自らに言い聞かせながら懸命に努力する姿が描かれる。しかし他方で、あらゆることに行き詰まったアイリスが「変わろうとしたけれど結局人は変わらない」と絶望する姿も描かれる。イーサンがフォリーに対してしつこく食らいつくのは「所詮人は変わらない」ことを前提としたものだが、さてこれほどどちらが正しいのだろうか？その答えらしきものが本作のラストに登場するが、さてその説得力は・・・？

2012（平成24）年10月17日記